

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第88号

発行日：令和3年 2月 1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市教育委員会事務局内

新年を迎えて 新たな決意

会長 末次 弘幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年が皆さまにとりまして平穏で、幸多き一年でありますよう、お祈り申し上げます。

2020年(暦年ベース)を振り返りますと、5月に従来の曜日班体制から事業別(機能別)グループ運営体制へと組織改革を行ったものの、コロナ時代の幕開けで、市内施設の一時休館などの影響もあって、少なくとも前半は十分な活動ができない状況が続きました。

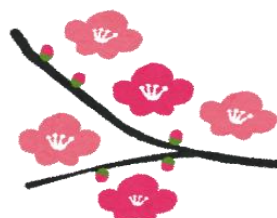
10月に本格的な活動再開後は毎月史跡ガイドの申し込みがあり、市民ガイドも実施しました。ロマン体験学習については10月から毎月3名派遣の支援活動を行っております。文化財保護活動の一環として、10月・11月に有岡城跡などの清掃活動を行いました。また、7月・8月の活動自粛期間中には会員対象の勉強会を開催、10月・11月には屋外研修を実施しました。

皆さまのご協力・ご支援により、10月以降はほぼ計画どおりに活動することができましたこと、深謝申し上げます。



2021年の干支(かんし:十干と十二支を組み合わせた60年周期の暦)は、「辛丑(かのとうし)」にあたります。十干と十二支は、それぞれ植物の一

生を表していて、辛(かのと:十干の第8番目)は、「草木が枯れて、新しくなろうとしている状態」、丑(うし:十二支の第2番目)は、「種から芽が出ようとする状態」を意味します。



これを組織に当てはめれば、新しく導入したグループ運営体制のもと、種の殻を破って芽を出し、上を目指して成長していく年ということになります。

伊丹市文化財ボランティアの会は設立から25周年を迎えますが、辛丑という干支にちなみ、諸先輩が築かれた伝統を基盤に、それよりは少しでも高いステージへ向けて飛躍したいものです。

コロナ感染問題は、まだまだ続くものと思われます。健康に十分配慮し「無病息災の1年」とすべく留意する一方で、会員の相互研鑽を図りつつ、その成果を市民の皆さまに発信していきたいと思います。そして、組織と会員お一人おひとりの「飛躍を目指す1年」にしたいと考えます。

この目標達成へ向けて、牛のごとく、ゆっくりではあるものの、しっかりと地歩を固めつつ、地道に進んでいきたいと思っております。引き続き皆さま方のご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【ボランティアガイドの案内】 伊丹市内に散在する文化財(史跡)のガイドをご希望される方は、伊丹市教育委員会事務局内 文化財担当まで電話(☎:072-784-8090)または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

年男

牡牛からの一言

18 期生 山岸 一人



中共(中国共産党)の悪手の駒がチベットの峰を越え、シルクロードを走り、イスタンブールに到着し、どうしたことが、ダライ・ラマもローマ教皇もダンマリを決め込み、海を渡って、新大陸まで…。ここでも基督はテレビ箱を独占せず。いったい誰が箱舟を出すと言うのか。

6 度目の年男を迎えて、余は牡牛の姿に変えて横たわり、しかたなく茶を点て、一句詠む。

「嗚呼やはり ここ天蓋に 神は居ず」

誰も本物のハルマゲドンと気付かず、コロナ、コロナと騒いでいる。

人生100時代を迎えて

23 期生 古結 準治

先年に還暦を迎え同窓会で旧交を温めたかと思ったら、あっという間に十年が一日の如く過ぎ去りて古希となり、今年は6廻り目の年男の72歳になりました。『光陰矢の如し』とは、まさに還暦後の月日の経つ早さでしょうか。

人生100年時代を迎えて何が一番肝心かといえば、先ずは健康寿命を延ばしていくことでしょう。そのためには年々衰えてゆく体力を維持又は強化してゆくことです。20代を境に体力は年に1%位ずつ衰えてゆくといわれています。70歳ともなれば若い頃の体力の半分になってしまいます。

この衰えゆく体力をカバーするために、4年

前に現役を退いたときに阪急伊丹駅前のスポーツジムに入会しました。スポーツジムといえば、皆さんはさぞかし若者が元気よくトレーニングしているところとお思いでしょうが、中高年のシニア世代が多いことにビックリするでしょう。女性の80代はざらで90歳の方もおられ、男性でも80歳半ばの人がトレーニングされています。また、ヨガ・整体・ダイエット体操・エアロビクス・ダンス・バレエなどの教室もあるので、健康づくりの社交場にもなって、皆さん楽しまれています。

体力強化トレーニングの一つは筋力の強化で、もう一つは心肺機能の回復です。中高年は特に下半身の筋力強化が大事で、主に筋トレマシーンを使って体幹(腹部)と下肢を鍛えます。また、心肺機能の回復は有酸素運動(ランニング、ウォーキングやバイク)をすることで肺から酸素を取り入れて心臓に送り、心臓から送り出された血液のヘモグロビンに乗せられて体中に酸素を送ることによって、すべての臓器を活性化し元気を回復して老化を防ぐことになります。



このことを週5回位のペースで朝8時から昼まで、ストレッチ体操→筋トレ→有酸素運動と行ってきて現在に至っています。お陰で体力年齢は大分若返ってきました。

筋力はいくつになっても鍛えれば強くなるといわれています。皆さんもスポーツジムに入らなくても身近なところで体力強化に心掛け、人生100年時代に備えられては如何でしょう。

屋外研修

淀屋橋・北浜史跡めぐり

11月20(金)の屋外研修は大阪淀屋橋駅に集合し、竹中さんのガイドで適塾～御霊神社～少彦名(すくなひこな)神社と史跡・重要文化財を巡り、御堂筋のライトアップを楽しみました。

①適塾は緒方洪庵の開いた私塾です。大阪北浜のオフィス街にひっそりとあり、江戸時代の

町屋の佇まいを留めています。1階は教室、洪庵の客室や書斎と続き、中庭や居住部も綺麗に保存されています。急な階段を上った2階には塾生が宿泊した大広間や蘭和辞書が置いてあったジープ部屋があり、当時の資料が多く展示されています。高い志を抱いて学んでいた幕末



適塾

の青年たちの熱い息吹が伝わってきます。洪庵は医学者・蘭学者ですが、優れた教育者でもあり、適塾から大村

益次郎や福沢諭吉など、歴史に名を残す数多くの優れた人材を輩出しています。

②御霊神社は浪速の氏神様として親しまれており、千年以上の歴史があります。戦火に遭っても逞しく蘇った、境内の御神木クスノ木に目をひかれました。

③少彦名神社は薬の街として知られる道修町のビルの谷間に鎮座し、医薬の神として知られる神社です。祭神は少彦名命と神農炎帝で別

称「神農さん」と呼ばれています。張り子の神虎が病気退散、病氣平癒、健康成就の象徴です。境内にはくすりの資料館もありますが、休館で入れず残念でした。

午後4時 30分から御堂筋の



少彦名神社

イルミネーションが始まりました。各ゾーン毎に違った色の光が幻想的に煌めき、御堂筋はどこまでも続く光のロードです。美しい光の中を歩いてみたい気持ちでしたが、コロナ禍でもあり美しい景色を臉とカメラにしっかり収め、早々に帰途につきました。

(角谷 記)

文化財保護啓発事業・市民ガイド

旧御願塚村を巡る

「一寸先は闇」という使い古されたことわざが、妙に頭から離れない。

「旧御願塚村を巡る」は昨年3月、市民ガイドとして実施される予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染が拡大する状況下で、延期。緊急事態宣言の解除後、11月に開催される「伊丹市文化財保護啓発事業」の歴史散策として再度企画されました。

ところがウィルス感染は収まるどころか、実施される11月29日(日)は第3波の感染拡大となり、歯止めが掛からない時期でした。

一般参加者の募集人数を15名に制限し、会員からの参加は控えることになりました。当日は12名が参加しましたが、それを4人ずつの3班に分け、それぞれの班を3名の会員がガイドすることになりました。

御願塚には伊丹の指定を受けた景観形成建築物が二邸(田中邸・簗邸)あり、近くの街並みを通るとまさに江戸



景観形成建築物

時代にタイムスリップしたような感覚になります。また、このあたりには防火の神への愛宕信仰から「愛宕講」が行われており、街のところどころに「愛宕社」が残っています。3つのガイド班は旧御願塚村の歴史を解説しながら、それぞれ違った順路でコースを散策していました。

参加者たちは特徴ある両部鳥居から須佐男神社に入り、伊丹市文化財に指定されている本殿を見学し、御願塚古墳で古代の神秘にロマンを感じながら、歴史散策を終えました。

密を避けた少人数分けのガイドは質問しやすいというメリットもあり、参加者には好評だったようです。しかし、マスクを着用し手に消毒液を付けながら解説書を配る光景が、重く脳裏に焼き付けられました。こんなガイドもあったなあと、振り返る日が早く来ることを祈るばかりです。

(金川 記)



須佐男神社

思い出の世界遺産 (15) ネパールの巻

山内 富美子

「エベレスト遊覧飛行」と

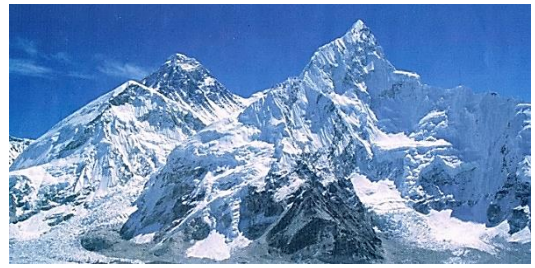
「カトマンズ・パタン・バクタブル」

首都のカトマンズまでの関西空港からの直行便はなく、シンガポールを経由してカトマンズに到着するのに、丸一日かかりました。

今回のネパールの訪問の目的は、地球上で一番高いエベレストを始め、ヒマラヤの 8000m 以上の山々を、直に自分の目で見たかったことと、「カトマンズの谷」に登録されている 3 つの世界遺産を訪れることでした。

マウンテンフライトと呼ばれる遊覧飛行により、世界最高峰の 8848m のエベレスト山を目の前に見ることができました。フライトの 1 回目は、山頂付近は霧のため中止になり、2 回目のチャンスをものにして、思いを遂げました。飛行機の中は、参加者全員が、公平に山々が見えるように、通路側の座席は、すべて空席で、窓側の座席だけに座りました。この遊覧飛行はとても人気があり、世界中から人々が訪れていますが、私たちの飛行機にはインドと日本の観光客が同乗しました。

世界の屋根と言われるヒマラヤ山脈には、8000m 以上の山が 14 座もあり、かつては海の底だったとは驚きでした。これらの山々を見るために飛行機は高度 9000m 近くまで上り、いよいよエベレスト山に近づきます。雲の上に現れた 8000m 以上の山々が見えたときには、涙が出るほど感動し、皆は一斉に感動の声をあげ、カメラやビデオカメラをかまえ、すばらしく神々しいと思える峰々をカメラに収め、目にも焼き付けました。そのうえ、機長さんの好意で一人ずつコックピットの中に入り、目の前に広がる白い雪を頂く峰々を、食い入るように眺めることができました。遊覧飛行でヒマラヤ山脈のすぐ近くを飛び、迫力満点のエベレストを見ることができたのは、最高の喜びでした。Yeti Airlines に感謝、感謝でした。Yeti とは、雪男の意味です。遊覧飛行の終



了後、フライト証明書(機長サイン入りのエベレストの写真付き)を渡され、大願成就を実感しました。

ヒマラヤを抱えているネパールという国は、面積が北海道の約 1.8 倍という日本よりずっと小さい国ですが、民族は 30 以上あり、そのため言語や方言が 50 以上にのぼるということです。ネパール語が公用語で、行政、教育、新聞、ラジオなどに用いられていますが、日常生活では、ネパール語オンリーではなく、中高生や大学生など比較的若い人達との会話では、すべて英語で行いました。女子中学生たちは日本から来たことを話すと、日本には殊の外興味を示して、英語で色々なことをどんどん尋ねてきました。又、高校生はネパール語の授業以外の教科は、すべて英語でなされていると話していました。

さて、世界遺産についてですが、ヒマラヤ山脈のふもとに、カトマンズ盆地が広がっており、そこに、中世に 3 つの王国ができました。この 3 王国時代に、数多くの王宮や寺院が建てられ、ヒンズー教と仏教が混交する独自の文化が育まれました。この盆地内に点在する古都や広場や寺院などが世界遺産に登録されています。パタン・バクタブル・カトマンズの 3 つの世界遺産です。

まず、パタンという町は中世時代は首都で、

「美しい都」と呼ばれていた芸術の町です。今も町のあちこちに彫刻や仏画などの工芸品の店が軒を連ねており、町中が美術品の佇まいを持っています。特に、孔雀を彫刻した窓の飾り物や仏像の彫刻、緻密な曼陀羅の絵は、素晴らしい美術品でした。パタンの中心の宮廷という意味のダルバール広場には、東側に王宮、西側には寺院が並び、まさにネパール建築のオンパレードです。これらの王宮や寺院は 16 世紀から

18 世紀にかけて建てられたもので、特に寺院は 10 程の建物があり、仏教寺院・ヒンズー教寺院・インド様式の寺院・三重層や五重層の寺院など、実に様々な寺院が立ち並び、まさに、寺院建築の見本市会場のようです。旧王宮は王が即位するたびに増築され、かつては 12 の建物がありましたが、今は 3 つのみ残っておりパタン博物館としてヒンズー教と仏教の神像や、装飾品、美術品が展示されています。

次に、世界遺産の町バクタプルですが、外国人が、この町に入るときには、入場料を払う必要があります。ダルバール(宮廷)広場には旧王宮があり、そのゴールデンゲイトでは衛兵の交代が見られます。中に入ると、左側に国立美術館、右側に 55 の窓のある宮殿があります。その 55 の窓は美しい木彫りが有名で、ネワール建築のすばらしさを物語っています。王宮のまわりには、



ニャタポラ寺院

多くの寺院があります。バクタプルで目立つのがニャタポラ寺院で、5 層の屋根を持ち、高さ 36m とネパールで 1 番高い塔です。正面の石段の両側には下から順に、伝説

上の戦士、象、獅子、グリフィン、女神の石像が守護神として一対ずつ置かれており、それぞれ下の動物の 10 倍の力を持つといわれています。これらは寺院を一層引き立て、装飾用としても人の目を引き付けます。石段を上り基壇の上からの眺めはとても良かったとの、上った人の感想を聞き、私は登れず残念でした。尚、バクタプルは別名バドガオンとも言い、「帰依者の町」という意味があります。又、この地で栄えたネワール彫刻の最高傑作である「孔雀の窓」は有名で、あちこちに飾ってあり、お土産用にもたくさん売っています。私も小さな飾り物の「孔雀の窓」を買いました。

次に、ネパールの首都カトマンズの世界遺産について述べていきます。カトマンズの中心はダルバール(宮廷)広場で、「町のへそ」と言える場所です。旧王宮や寺院やみやげ物売り場で

賑わっています。旧王宮はハヌマン・ドカとよばれています。ハヌマンとはヒンズー教の猿の神様のことで、ドカとは門のことです。入口に猿のハヌマン像があることからこう呼ばれています。その門から中に入ると大きな中庭があり、そこでは外国の元首が訪れたときの国家行事などが催されます。王宮周辺には沢山の寺院が立ち並んでいますが、2015 年のネパール大地震で建物が倒れたり傾いたりして、今も修理中です。世界中からの支援があり、日本も寺院の 1 つを修理していて、その標識が出ていました。

カトマンズの中心に「クマリの館」という窓枠の木彫りが見事な建物があります。女神クマリの化身として崇拝されている少女が住んでいます。生き神様のクマリはネワール仏教の僧侶の階級の家族から、初潮前のけがれや病気の跡のない、美しく利発な少女が選ばれます。クマリの館に住み始めると、神としての振舞い方を教えこまれ、人々の病気治療や願いや望みが成就するよう占いなども行います。1 日に何度か決められた時刻に、2 階の窓からクマリが顔を出すのでその姿を拝みに館の庭に行きました。すると、歌舞伎役者のように綺麗に顔に化粧を施され、着飾った姿の生き神様のクマリが現れました。彼女は何もしゃべらず、ただ人々を見つめているだけでした。ほんの数分間のお出ましで、写真は御法度、私達も黙って眺めるだけでした。



クマリの館

カトマンズの丘の頂上に、ネパール最古の仏教寺院スワヤンブナート寺院があり、その白い巨大なストゥーパ



スワヤンブナート寺院

(仏塔)が特徴で、ここに茶色の袈裟をまとった子供たちの修行僧がお参りに来て、賑やかに摩尼を回しながら歩いていたのが印象に残っています。

2020 年は鴻池家の始祖・山中(鴻池)新六の生誕 450 年にあたる。その記念行事として開催されたバスツアー「鴻池家の旧跡を訪ねる」(11 月 12 日)に参加した。

清酒発祥の地・鴻池にある伊丹市北センター前から午前 8 時 50 分に出発。伊丹アイフォニックホール前で 6 名を乗せて、参加者 37 名が揃った。

最初の見学スポットは大阪歴史博物館。午前 10 時過ぎから午前 11 時 30 分まで自由見学。難波宮関連遺跡の上に建ち、保護のために細長い 10 階建ての建物で、10 階から下の階へと降りながら見学していく。10 階の前期難波宮と後期難波宮のレプリカや出土品などを見学した後、窓から難波宮史跡公園と復元された大極殿基壇などを見下ろした。7 階には、当日の入館目的である鴻池家コーナーがある。鴻池家の歴史として、「始祖の新六幸元は慶長年間(1600 年頃)に摂津国鴻池村(現・兵庫県伊丹市)で、酒造業を始め清酒を造って江戸へ出荷した。そ



その後、大坂に進出し、海運業や大名貸を行い、両替店を営んだ」と説明されている。さらに、11 代当主鴻池善右

衛門幸方の写真と鴻池家から寄贈された幸方時代の生活用具(明治時代から昭和初期)が展示されている。大阪商家の生活文化を伝える資料である。

2 番目の訪問先は、大阪市中央区今橋にある大阪美術倶楽部。現在は 4 階建ての瀟洒なビルになっているが、敷地南東角に「旧鴻池家本宅跡」の石碑が建つ。同倶楽部が昭



旧鴻池家跡の石碑

和 22 年に鴻池家から本宅を入手して、古美術品の交換会、美術品の展覧、呉服衣装展、茶道、華道、書道展等の貸会場として営業している。1 階で弁当を食べた後、館内を見学した。

次の目的地は鴻池新田会所。バスに揺られること約 30 分、午後 1 時 30 分ごろ到着。鴻池新田会所とは、江戸時代に鴻池家が開発した新田の管理・運営をおこなった施設。新田経営の拠点である。10,662 m²の 会所敷地は国の史跡で、本屋、屋敷蔵、文書蔵、米蔵、道具蔵と江戸時代の本屋座敷の棟札、米蔵の御札は重要文化財に指定されている。



鴻池新田会所

新田開発を行ったのは、鴻池家 3 代目の鴻池善右衛門宗利。1704 年(宝永元)の大和川付替工事の結果、流れがとだえた旧河川の川筋や水位が下がった湖沼に、広大な敷地が生じた。そのうちの新開池という大きな池のあった辺り(現在の東大阪市北部の鴻池町周辺)に、200 町歩(200ha)あまりを新田として開発した。1705 年(宝永 2)4 月に工事着手、1707 年(宝永 4)に完成させた。

学芸員の説明によれば鴻池新田では、米ではなく、綿を栽培した。入植者が定着しない地域もあったが、鴻池家は入植者を厚遇したため、逃散する人はいなかったという。

午後 2 時 30 分ごろ最後の訪問地・奈良市鳥見町にある「和菓子屋カフェみやけ」へ向けて

出発した。鴻池善右衛門家



みやけ(旧鴻池邸表家)

今橋本邸の表屋がこの地に移築されている。入口の説明版にその経緯が説明されている。《1979 年に大阪美術倶楽部の改装に際して表屋が撤去される事になりました。歴史的建造物であることから保存を求める声が市民からあがったものの財政難を理由に拒否されます。そこで三宅製餡株式会社の二代目社長 三宅一真が「なんとか船場のシンボルを残したい」とこれを引き取り、奈良市鳥見町の所有地に移したのです》。

表屋に上がり、どら焼きとコーヒーの「もぐもぐタイム」を楽しむ。GOTOトラベルの一環として、旅行会社から地域共通クーポン 1,000 円(当日限り有効)が出た。併設の和菓子店に参加者が密になり、このクーポンで、どら焼きなどを買う。

午後 4 時にバスは帰途についた。高速道路の渋滞はなく、順調に走り、宝塚インターを降りて、スタート地点の北センターには午後 5 時過ぎに到着した。

【1 月の定例会発表】

『年の始めの縁起担ぎ』と『古今東西お雑煮グルメ』

令和 3 年 1 月 12 日(火)の定例会で、竹中稔さんが表題について発表されました。概要は以下のとおりです。

『年の始めの縁起担ぎ』

- ・「正月」の行事、「あけましておめでとう」という言葉、「門松」「しめ飾り」や「鏡餅」などの飾り、それらは豊穰を司る歳神様に対するお迎えとお祝い、感謝・歓迎の意味が含まれる日本最古の行事で、日本人がいかに縁起というものを大切にしてきたかの証です。



- ・年の始めにまつわる個性ある縁起物には①「鶴と亀」「陰と陽」、②「松竹梅」、③「初夢」、④「干支」、⑤その他「暮らしにちなんだ縁起物」として(福助人形)(だるま)(赤べこ)(招き猫)(ビリケン)(お多福)など親しみ深くほっこりさせるものがあります。

『古今東西お雑煮グルメ』

- ・お供えの鏡餅を下げた後にいただく習わしからお雑煮が始まったとされます。関東で

は焼いた角餅にすまし汁、関西では煮た丸餅に味噌仕立てという東西異なる形で広まりました。

- ・お雑煮は具材にその土地の名産が用いられる地産地消の料理といえます。各地の雑煮には(東京のすまし汁仕立ての関東風雑煮)(京都の白味噌雑煮)を始め(函館のごっこの雑煮)(宮古のくるみ雑煮)(金沢の紅白雑煮)(奈良のきな粉雑煮)(鳥取の小豆雑煮)(広島のかき雑煮)等々、個性豊かなものが結構あります。さしずめ雑煮のケンミンショーです。



古くからの『年の始めの縁起物やお雑煮』は今なお我々の生活に深く入り込んでいる習わしで、それはコロナ禍にあってほっこり温かいもののようです。

(山本 記)

Quiz

伊丹文化財クイズ

右の漢字を並べて完成する、伊丹ゆかりの歴史上人物3人の名前(フルネーム)をお答えください。

答えは 8 ページ。

白	高	荒	嶺	梶
加	鬼	次	頼	上
師	木	中	阜	重
島	田	元	洲	直
郎	諸	山	平	幸

京の人々は、遠慮なく公卿や寺院の悪口を、歌で囃していた。寛政十年(1797)7月1日、京の方広寺の大仏さんが焼失した時も「京の京の大仏さんは、天火で焼けてな、三十三間堂は焼け残った。ありや、どんどんどん、こりや、どんどんどん」と、歌った。

大徳寺の 茶面(ちゃづら) 千利休と茶の湯に縁の多い寺。

建仁寺の 学問面(がくもんづら) 学問興隆と伝統の寺。

東福寺の 伽藍面(がらんづら) 奈良の東大寺と興福寺の名を取った。

妙心寺の 算盤面(そろばんづら) 財政組織を誇った。

錦小路は元<糞小路>と言われていたが、余りに酷いので<錦小路>と変えられた。

※シリーズ「京・アラカルト」は今回が最終回です。



トピックス

◎サンテレビ情報番組に出演

12月20日(日)朝8時30分からサンテレビで放送された、「ひょうご発信」に、社会教育課の中畔主幹と当会の末次会長が出演しました。「ひょうご発信」は兵庫県民への情報番組で、番組内の情報コーナー「教えて！ひょうご」で、中畔主幹が昨年「伊丹諸白」と「灘の生一本」が日本遺産に認定された経緯を説明し、続いて末次会長が伊丹の酒造りについて解説しました。



◎第26回文化財ボランティア養成講座

令和3年1月19日(火)から、第26回文化財ボランティア養成講座が感染防止対策を徹底して始まりました。

- ・1/19(火)オリエンテーション
- ・1/26(火)講座「伊丹郷町・猪名野神社」
- ・2/2(火)講座「天正～慶長期の城郭」
- ・2/9(火)講座「荒木村重・村次、岩佐又兵衛」
- ・2/16(火)講座「伊丹の民俗・野宮御渡り」
- ・3/2(火)史跡めぐり準備
- ・3/16(火)史跡めぐり下見
- ・3/20(土祝)史跡めぐり

活動記録 (12月～1月)

【定例会】・12/8(火) ・1/12(火)

【案内ガイド】・12/6(日) Aコース(シニアカレッジ 宝塚市)・12/10(木) Aコース(コミュニティカレッジ 豊中市)・12/11(金) Cコース(老人クラブ 伊丹市)

【歴史ロマン体験学習支援】・12月12日(土) クリスマスツリーを作ろう
・1月23(土) 手ぬぐいに模様をつけよう

今後の予定 (2月～4月)

【定例会】・2/9(火) ・3/9(火) ・4/13(火) 予定

【どんぐり座公演】・2/15(月)、16(火) 稲野小学校

【歴史ロマン体験学習支援】・2月13日(土) 鋳造に挑戦：鏡 ・3月6(土) 箸をつくろう

【研究サロン班】勉強会 2/18(木)・3/18(木)・4/15(木)
屋外研修 3/4(木)・4/1(木)・4/29(木祝)

(クイズの答え) 白洲次郎、高師直、山中幸元